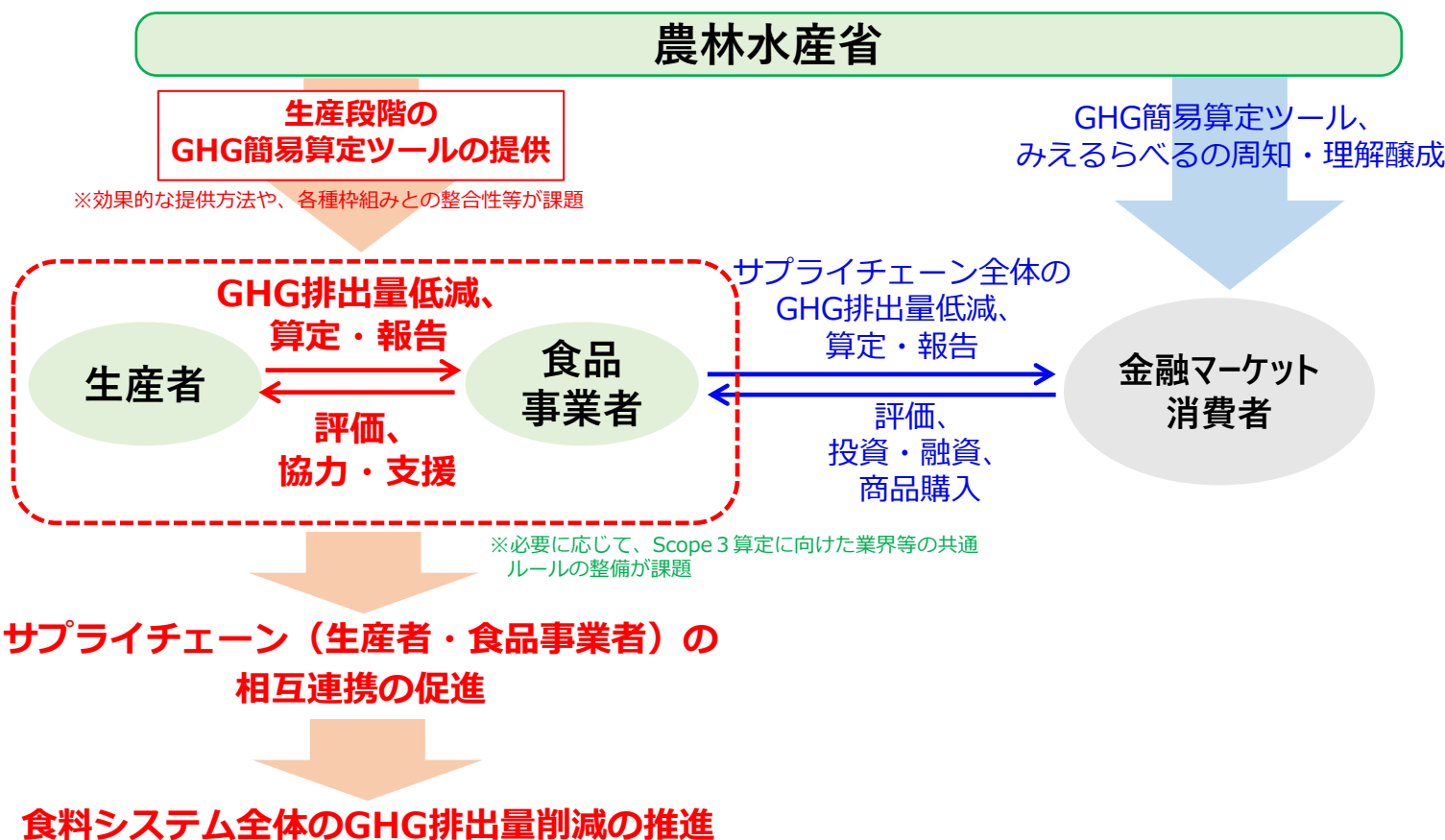


5. 簡易算定シートを用いたScope 3 算定に向けた 環境省令和7年度バリューチェーン全体での 脱炭素化推進モデル事業との連携について

食品事業者・生産者による「簡易算定ツール」のScope 3 算定への活用推進

- 農林水産省の環境負荷低減の取組の「見える化」に用いる簡易算定ツールは、「みえるらべる」の表示だけでなく、算定した生産段階の温室効果ガス排出量（1次データ）を、食品関連事業者のScope 3 カテゴリ 1 のデータに活用可能。
- 特に、食肉加工業界では、環境省所管の予算事業において、農林水産省の簡易算定ツールの活用を前提としたScope 3 算定に係るガイドラインの整備が検討されている。
- 農林水産省としては、生産段階の簡易算定ツールの食品業界における活用を促すことで、サプライチェーン（生産者・食品事業者）の連携を促進し、食料システム全体のGHG排出量の削減の取組を推進していく。

【農林水産省のGHG簡易算定ツール活用の目指す姿】



【ガイドライン整備の取組（食肉業界）】

バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業
令和7年度実施モデル事業

業界団体支援

畜産

参加団体

全農
ZEN-NOH

- 代表：全国農業協同組合連合会
- 構成メンバー：日本ハム株式会社、プリマハム株式会社、スターゼン株式会社、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社

業種

畜産物の生産・加工および流通

取組内容（予定）

畜産業界のバリューチェーン全体の脱炭素化に向け、カテゴリ1・5の1次データ化を前提としたScope3算定ルールガイドライン策定に取り組む。

(参考) 見える化ガイドライン「Scope 3 算定への活用に向けて 1次データとしての活用」

- 見える化ガイドラインにおいても、Scope3算定への活用可能性やメリットを紹介。
- 農林水産省としても積極的な推進に向けて検討してまいりたい。

4. サプライチェーン全体での温室効果ガス削減の実現に向けて

SCOPE 3 算定への活用に向けて 一次データとしての活用

- 生産者が生産現場等のデータを用いて簡易算定ツールにより算出した温室効果ガス排出量（一次データ）は、食品加工事業者・流通事業者のScope3カテゴリ1データ（原材料等）として利用することが考えられます。
- この場合、生産者の温室効果ガス削減努力（生産性の向上を含む）による効果が事業者の算定に反映できるようになります。

- Scope3の各カテゴリの排出量の算定方法には以下の2種がある。

a. 簡易算定シートにより算定した温室効果ガス排出量（一次データ）を活用した場合

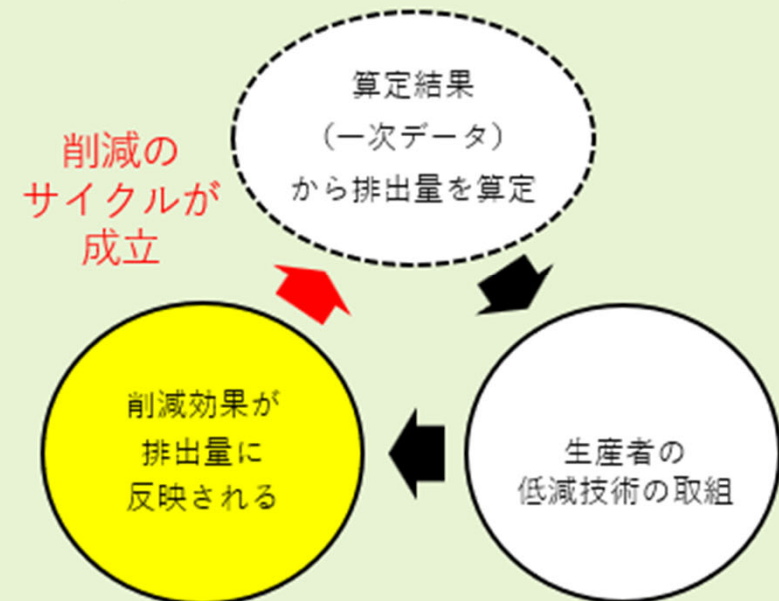
- ・ 取引農業者等から「@@年度の貴社向け生産に係る総排出量は**トンでした」のような報告を受ける。

b. 一次データを活用しない場合

- 「排出量 = 活動量 × 排出原単位」という算定式から導出
- ・ 活動量を自社で収集
 - ・ 排出原単位は、外部データベースや取引先から得る（=削減努力が反映できない）

● 簡易算定シートによる算定結果を活用した場合

- ・ 簡易算定シートにより算出した温室効果ガス排出量（一次データ）を食品加工事業者等が利用した場合、生産者による温室効果ガス低減技術の効果が反映された温室効果ガス排出量をScope3に反映できる。



参考：環境省「サプライチェーン排出量 詳細資料」

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate.html

6. 今年度のスケジュール

今年度のスケジュール

6月上旬～11月下旬：畜産の見える化算定実証

1月7日：第1回 見える化検討会（公開）

3月～ ：販売実証（順次開始）